



# すずらんジャーナル

## 船橋市議会議員 はしもと 和子

市民相談はお気軽に 公明党控室 436-3032

### 希望の未来へ!あなたと市政のかけ橋に

- \*次世代を担う子ども達の為に教育環境の充実
- \*女性が主役として暮らしていける社会の構築
- \*安全安心の街づくりと生活環境の取り組み
- \*少子・高齢化社会における支援の取り組み

「笑顔で・誠実・迅速に」をモットーに、  
「笑顔の庶民派NO. 1」を目指し、  
「現場を歩き」「対話に動く」皆様との  
ひざ詰めの対話を行ってまいります。



©NEW KOMETO

平成25年第3回定例議会の報告をさせていただきます。



©NEW KOMETO



©NEW KOMETO

# がん教育について



**はしもと** 国民の2人に1人がかかると言われているがんについて、子どものころからのがん教育の重要性が指摘されています。

現在の教育現場では、がんは保健体育の授

業で生活習慣病の予防や喫煙などの害を学ぶ際、他の病気と合わせて紹介される程度です。授業時間も小中高校で、それぞれ1時間ほどしか確保されておらず、有効な、がん教育が行われてきたとはとてもいえません。

がん教育は、子どもたちが自身の健康の大切さを学ぶと同時に、病気の人に対する偏見や差別を無くすための重要な機会となります。

本市におけるがん教育の現状はどのようになっているのでしょうか。

**学校教育部長** 小学校では、「タバコを吸うと肺がんにかかりやすくなる」

中学校では「喫煙や飲酒を続けると発がん性物質により喉頭がんや肺がん、肝臓がんなど様々ながんになりやすくなる」という学習を行っている。

**はしもと** がん教育の重要なことは「いのちの大切さ」をどう教えるか。がんは他の病気と違い、検診等で早期発見すれば「完治」治らない場合は「残された貴重な時間を有意義に過ごす」ことが大切です。



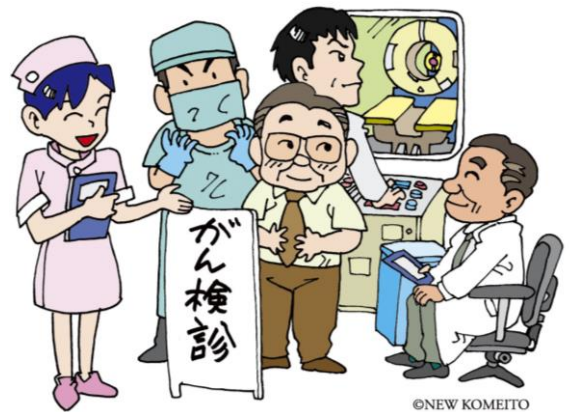


がんは、禁煙や正しい生活習慣を心がけることが重要です。しかし、それ以外の避けられない要因の可能性も大きいので、検診等の重要性のほか「今、

生きていることの大きな意味」「いのちの大切さ」「イジメはいけない」等を認識できるチャンスでもあります。さらに言えば、がん教育こそ、人間そのもの、場合によっては、「死」ということを真正面から見つめることにより「生死観」も生まれてくるという極めて大きな教育効果をもたらします。



実際に全国の中学校でがん教育を行っている、中川恵一准教授は「がんというものは、知るということが大変重要で、知らないと『がんは怖い』『がんは痛い』となり、検査して、がんと言われたら怖いので、検診に行かない。すると、早期発見されないので、進行がんや末期がんになる。それを断ち切るには、知るということが大事です。」と



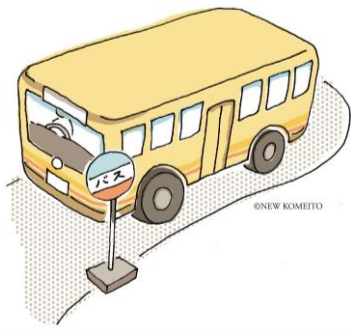
積極的にがん教育に取り組むことを要望しました。

# スクールカウンセラーについて

**はしもと** いじめが起きると、誰にも悩みを打ち明けられず、学校や大人の側も把握できないまま、深刻な事態に至るケースが多くあります。

船橋は全中学校には配置されていますが、小学校へ配置されていないので、人材の確保・勤務日数等を確認し、早期配置を望みます。

**学校教育部長** 市長の公約でもあり、各小学校にスクールカウンセラーに関する調査をおこなっているため、学校の意見を聞きながら、勤務日数・時間等検討し、早期に全校配置を進める。



このほかに「接遇日本一めざして」で、あいさつはもちろん、身だしなみは、その人の仕事に取り組む『心の姿勢』が表れること。「高根・金杉地域の抱える問題」で、三咲方面のバスを金杉台団地内に乗り入れてほしいことを要望しました。

はしもと 和子 090-5574-9079  
ホームページ [hashimoto-kazuko.jp](http://hashimoto-kazuko.jp)  
ご意見・ご感想をお寄せください。

